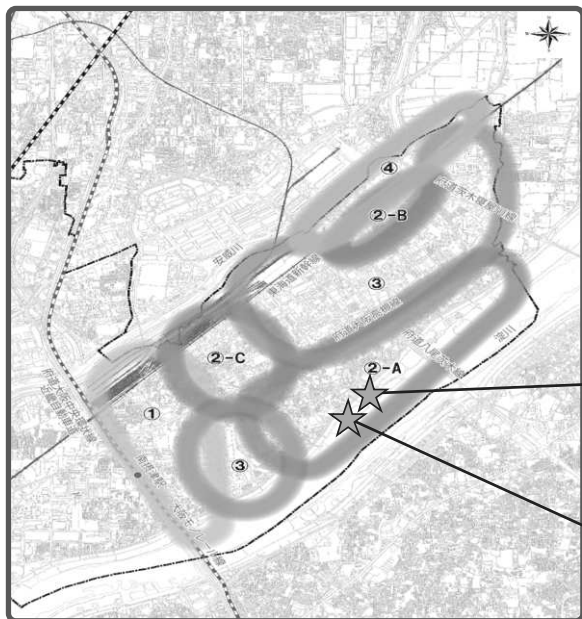


4. 今後のまちづくりの方向性

鳥飼地域一体として議論するのではなく、現時点では、4つの「まちづくりエリア」を設定し、地域資源や地域の個性を改めて評価し、地域ごとの特徴に磨きをかけ、まちづくりを検討して行くことになっています。



①人とものが集まる賑わい(核)エリア

②居住性向上エリア(A・B・C)

③企業と住民の共存発展エリア

④田園(農業とのふれあい)エリア



「居住性向上エリアA」にて、2つの事業が開始されています。

【河川防災ステーション】

- ・国の事業
- ・令和4年3月25日付で国土交通省にて整備計画を登録。

【とりかいこども園】

- ・市の事業
- ・老朽化による建て替えが必要。高台化される予定。

鳥飼地区『河川防災ステーション』整備計画

鳥飼地域は、淀川の最大浸水想定区域図において、地域のほぼ全域が浸水エリアとなり、**2週間以上の浸水継続時間**が予測されています。その為、洪水時の水防活動や迅速な災害復旧活動を支える拠点である「**河川防災ステーション**」を整備すると共に、摂津市では「河川防災ステーション」を中心とした**高台まちづくり**を推進して行く計画となっています。

河川防災ステーションは、淀川の洪水被害を最小限に留める為、**災害時の緊急復旧活動**を行う上で、緊急用資材の備蓄やヘリポート等を整備する予定となっています。また、水防センターを設置するなど、市民の**一時的な避難場所**にもなり、**大災害から命を守る**ことに大きく貢献します。

この様に、災害時の活動拠点となることは当然のことながら、一方で、災害時だけでなく、**平常時では地域の憩いの場や、賑わいづくり等の拠点**としても、活用が大いに期待されるものです。

※現時点では、**2030年度末の完成**を目標に進められています。



河川防災ステーション整備イメージ

～これからの進め方について～

鳥飼まちづくりグランドデザインで掲げる構想に対しての具体策は、まだこれから検討が必要であり、**複雑且つ多岐に渡る課題**を解決して行かなければなりません。私が考えるポイントを以下に示します。

【市民参加の仕組みづくり】

まちづくりは、市民が主役であり、民間活力の積極的な導入が不可欠です。自らの創意工夫と市民相互の協力によって、主体的なまちづくりを推進すべきと考えます。市民・事業者・行政それぞれが、相互理解のもとに、互いに協働して取り組む仕組みを構築しなければなりません。

【若年層の積極的な参画】

まちづくりには、若年層の積極的な参画が極めて重要であり、若者の柔軟な発想や意見を積極的に取り入れ、活力あるまちづくりに取り組む必要があります。若者の地域参加を促進し、若者が活躍できるまちづくりが必須であり、若者が意思決定側に立てる仕組みづくりが必要です。

【包括的な議論の促進】

現在、本市では、小規模校化や公共交通の問題等、解決に向けて議論されているものの、個別で議論されていると言わざるを得ない状況です。個々の課題を複合的に捉え、俯瞰的に考えることで、魅力あるまちづくりを目指し、包括的な議論を促進する必要があります。

【スケジュールの明確化】

これらの複雑且つ多岐に渡る課題を解決すべく、具体策をいつまでに、何を、どの様に進めて行くのか？**5W1H**の視点に立って、スケジュールを組み立てる必要があります。スケジュールを明確に示した上で、それぞれの相互理解のもとに、進めて行く必要があります。

住み続けたい、住んでみたいと思う、**魅力ある鳥飼のまちづくり**を成功させる為には、地域住民の方々の**理解と協力が必須**であります。率直な意見をお聞かせ頂き、私と一緒に考え、行動して行きましょう！